

大学の
紹介

川内職業能力開発短期大学校 (ポリテクカレッジ川内)



生産技術科



電気エネルギー制御科



電子情報技術科



所在地: 薩摩川内市高城町2526

突撃
取材専門的な分野を詳しく学べる
ポリテク川内で聞いてみた!

国立・工科系の短期大学校である川内職業能力開発短期大学校(ポリテクカレッジ川内=薩摩川内市)。就職に向けて気になる資格取得や学習面、普段の生活について全学生145人に聞きました。
(hataori・高橋空雅)

Q.1 入学の理由は?

- 「ものづくりの設計から加工まで、一連の流れを学ぶことができる」(生産技術科)
- 「学費や寮費など、学校生活にかかるお金が安くすむ」(生産技術科)
- 「工業関係の仕事に就くために、基本から学べる」(電気エネルギー制御科)

基本的な知識から、実践的な部分まで、座学と実習を通して一連を学ぶことができますし、学費や寮費が安い、ということも大きな決め手ですね!

Q.2 ポリテク川内の
ここがイイ!

- 「普通は触れない、高精度の機械で実習できる」(生産技術科)
- 「実習が多く、楽しみながら知識を深められる」(電気エネルギー制御科)
- 「ソフトウェアとハードウェアの知識が両方身につく」(電子情報技術科)

「実習が多いので楽しい」「友達と仲良くなれる」という声が多かったです。また「繰り返し行うので、自分の成長もより感じることができる」そう。

Q.3 ポリテク川内の
おすすめポイント

- 「卒業制作は自分の作りたいものを作ることができる」(生産技術科)
- 「短期間で専門知識を身に付けられ、資格も取れるのに学費が安い」(電気エネルギー制御科)
- 「学食がおいしい」(電子情報技術科)

難しい資格も先生たちがサポートしてくれるそう。寮が学校敷地内にあるので、生活が便利という声も多かったです!

職業能力開発短期大学校
(ポリテクカレッジ)とは

独立行政法人・高齢・障害・求職者雇用支援機構が全国24カ所に配置する学校で、ものづくり技術を支える人材を育成する。高校卒業者が対象の「専門課程」(2年間)があり、就職率はほぼ100%と高い。修了後は全国10カ所の「応用課程」(2年間)にも進める。

学内
潜入

川内川あらし解明へ「スマート百葉箱」

「エンジニアとして、企業で即戦力となるスキルを身につけたい」。そう考える高校生は多いはず。ポリテクカレッジ川内では、そんな高校生に向けて、魅力あふれるカリキュラムが用意されている。その一つが2年次の総合制作実習(卒業制作)だ。その一つ、リアルタイムの画像や観測した気象データをインターネット上で閲覧できる「スマート百葉箱」の取り組みを、電子情報技術科2年の西園亮太さん(明桜館高校出身)に取材した。



取材を受ける山崎康弘先生(左)と西園亮太さん

気象データ収集へ開発継承

薩摩川内市の川内川河口では、晩秋から初春にかけて、朝霧が川内川を下って流れ出る現象「川内川あらし」がたびたび発生する。電子情報技術科では2020年度から同市企業連携協議会 ICT導入部会と共同で「川内川あらし」のメカニズムや発生を予報するのに必要な気象データを得るための「スマート百葉箱」の開発に取り組み。

西園さんたちは本年度、卒業制作で先輩の取り組みを引き継いだ。山崎康弘先生の指導のもと、前年度の反省から、消費電力を減らすために計測器を制御するマイコンを変更。風向と風速の観測を追加した。また、観測データをクラウド(インターネット)上に反映させ、場所や時間を問わず閲覧できるようにした。21年10月には



薩摩川内市の長崎堤防近くに設置された「スマート百葉箱」

開発した「百葉箱」を同市高江町の長崎堤防近くに設置。観測したデータは、鹿児島地方気象台や「川内川あらし」の世界自然遺産登録を目指す「川内川あらし協議会」に提供され、発生予測に活用される。

仲間と試行錯誤し課題解決

西園さんは高校の先輩に勧められ、パソコンのスキルを身につけるためにポリテクカレッジ川内に入学した。それまでは専門的な教育を受けていなかったため、入学してからの学習内容は難しかったそうだ。そこでパソコンを購入し、自宅でも学習するようになると、少しずついろいろなことができるようになったという。

それでも「スマート百葉箱」制作に必要な知識や技術は複雑で、授業で学習したことだけでなく、ネット上の情報も参考に

したという。「エラーが出た時は、他のメンバーと一緒にわいわい言いながら議論した。一晩寝て調べ直すと原因が分かったこともあった」と振り返る。

西園さんは卒業後、システムエンジニアとして県外の企業に就職する予定。卒業制作を通して「ポリテクに入る前は、分からないことをすぐ人に聞いていたが、自分で調べて解決する力が身についた」という。「興味のなかった分野でも、やろうという意識さえあれば、できるようになる」というメッセージを後輩たちに残した。

「学内潜入」取材担当

下井倉諄施さん

鹿児島工業高等専門学校
機械工学科5年

協力: hataori